Y03a　国立天文台「市民天文学」プロジェクト GALAXY CRUISE 参加者の属性

臼田-佐藤功美子, 柴田純子, 亀谷和久, 田中賢幸, 小池美知太郎, 内藤誠一郎, 山岡均（国立天文台）

すばる望遠鏡ハイパー・シュプリーム・カム (HSC) を使った大規模戦略枠サーベイ (HSC-SSP) の公開データを用いて、衝突・合体銀河の分類に市民が参加する「市民天文学」プロジェクト GALAXY CRUISE サイト（**https://galaxycruise.mtk.nao.ac.jp**）の公開から１年半以上経過した。2021 年 6 月 1 日現在、81 の国と地域より 6635 名が「市民天文学者」として登録している（うち、日本からは 5277 名）。銀河分類総数は 150 万を超え、分類結果を用いた科学解析も進みつつある（田中 et al. 2021 年春季年会「天文データと科学の新しい潮流」企画セッション）。進捗状況については、当サイト NEWS 記事などで随時報告している。

参加者には登録時に 1. 宇宙・天文との関わり方（「より娯楽的」から「より学術的」を 4 段階で）、2. 宇宙・天文にかける時間（「より短い」から「より長い」を 4 段階で）、3. 参加登録の理由（モチベーションを選択肢の中から選ぶ）について初期調査を実施している。2021 年 6 月 1 日の段階で、1000 個以上銀河を分類している参加者を「活発層」と定義し、[日本国内/それ以外] × [活発層/それ以外] の 4 つのグループで宇宙・天文との関わり方とかける時間を調査したところ、日本国内の活発層 218 名のうち、より娯楽的・短時間の参加者が 58%を占め、より学術的・長時間の 19%を大きく上回った。このことにより、新しい層を開拓できている可能性が示唆される。さらに、活発層は国内外を問わず、それ以外の参加者に比べて天文学研究への貢献をモチベーションに挙げる割合が高いことがわかった。

本講演では、初期調査から見える参加者の属性に加え、2021 年 6 月下旬から実施する参加者向けアンケートの結果に言及し、本プロジェクトの評価と今後の展望について議論する。